



川崎市及び川崎南・川崎北労働基準監督署 の合同安全啓発パトロールを実施しました



川崎南・川崎北労働基準監督署は川崎市経済労働局と協力し、合同で川崎市内の事業場を訪問して啓発活動を行う安全啓発パトロールを実施しました。

本年は、第14次労働災害防止計画の初年度となりますが、川崎市内の労働災害発生状況は9月末現在で4件の死亡災害(うち建設業3件)が発生し、休業4日以上之死傷災害も前年同期と比較して91件の増加となっています。さらに、神奈川県下では、建設業における死亡災害が多発している状況であり、8月までに11件の死亡災害が発生し、8月末までに発生した死亡災害としては、過去10年で最も多く発生していることから、本年の安全啓発パトロールは建設現場を対象としました。

今回のパトロールをきっかけとして、川崎市内の事業場で働く皆様が労働災害防止の重要性についての認識を深め、より安全で快適な職場環境の整備に積極的に取り組んでいただきますことをお願いいたします。

1 実施日

令和5年11月6日(月)

2 パトロール対象現場

名称:中央新幹線第一首都圏トンネル新設(梶ヶ谷工区)ほか共同企業体
(前田・三井住友・大日本・アイサワ)

所在地:川崎市宮前区梶ヶ谷1390

3 実施者

川崎市経済労働局長 川崎南労働基準監督署長 川崎北労働基準監督署長

4 実施内容

リニア中央新幹線工事のトンネル工事をシールド工法で施工している当現場について、工事の概要及び労働災害防止対策等を確認した後、大型クレーンの設置場所、セグメント置き場、シールド機が設置されている立坑、掘削土砂搬出の引込線等を巡視しました。

5 実施状況



パトロール現場の全景



大型モニター(デジタルサイネージ)の安全掲示板の確認をした状況
注意喚起などに役立っています。



パトロール実施者(川崎市経済労働局長(左)、川崎北労働基準監督署長(右))からのあいさつ

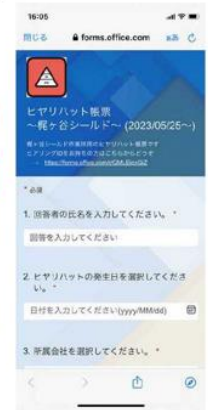


現場担当者による工事概要・労働災害防止対策の説明と発注者による施工者との連携した取組の説明

デジタル掲示板の使用、QR コードを用いた日常点検・ヒヤリハット報告(スマートフォン等で入力可)、チャットを用いた情報共有等のデジタルを有効活用して労働災害防止対策を行っていました。また、自動測量システムやセグメント自動搬送等の作業の効率化を図っていました。

【日常点検】

【ヒヤリハット報告】



QRコードを用いて玉掛けワイヤロープの点検結果やヒヤリハット報告を入力



立坑上部でクレーンの緊急時停止の管理手法を確認。声が聞こえにくい環境でもクレーン運転士に危険を知らせることができます。

(左から川崎北労働基準監督署長、作業所長、川崎市経済労働局長、川崎南労働基準監督署長)

立坑の周囲には、高さ1.4mの柵を設置しています。

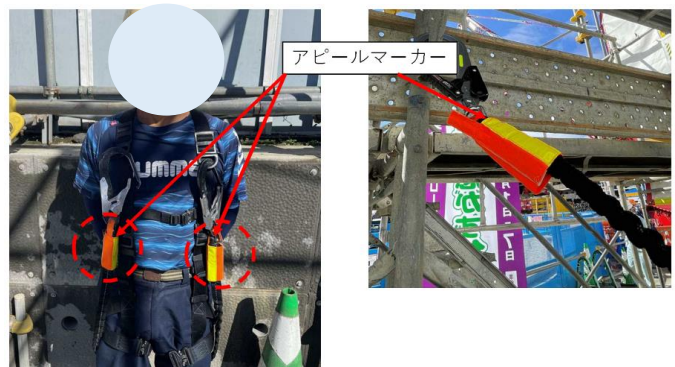
覗き込んでも胸ポケット等から物が立坑内に落下することはありません。

移動式クレーンの作業範囲にはカラーコーンとネットを取り付けた単管バリケードを設け、接触防止が徹底されていました。

墜落制止用器具(安全帯)にはフックにカラーマーカを付けて遠くから見ても使用していることが確認できるようにしていました。



作業範囲に2重の立入禁止措置

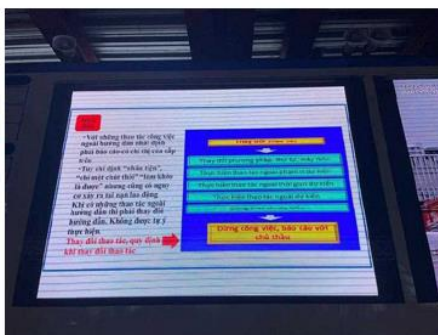


墜落制止用器具(安全帯)の使用状況が容易に確認できます。

現場に入場している外国人労働者向けには、外国語による注意喚起の掲示物などを活用して、理解しやすくする工夫をしていました。

【サインージ掲示状況】

【現場掲示状況】



英語

ベトナム語



実施者によるパトロール後の講評の様子

建設現場における労働災害防止の管理として、墜落・転落防止や建設機械の接触防止等の重点対策の徹底をはじめ、IT技術の活用などにより、DX化を促進し、効率化や危険の見える化に取り組んでおり、外国人労働者の労働災害防止など、様々な工夫をして取り組んでいる状況が確認できました。

講評では、気象状況の悪化(大雨、強風等)の影響による現場管理等について説明をしました。